



## 第8回YNU-HCD企画展のご案内

2013年10月26日・理工学部講義棟A106



### 『横浜国立大学ワンダーフォーゲル部の55年』

いまや空前の中高年の登山ブーム、それを山ガールたちが花を添えています。55年前、その頃も登山ブームでした。若者は山に出かけていました。横浜国立大学にも1957年ワンダーフォーゲル部が誕生しました。爾来55年間、紆余曲折の歴史を刻みながら部活動は絶えることなく続いています。OB会も活発な活動を続け、会員数は600名になろうとしています。特にシニアOB達は70才を越えるも月例登山に毎回40人位が参加しています。ホームカミングデーの交流会のフィナーレにワンゲルOBの「みはるかす」斉唱とエールで閉めることが、恒例になりつつあります。

そんな元気印のワンゲルの今昔を皆様を紹介する企画展です。ご来場をお待ちしています。



本年度のワンゲル新入部員達、大山で新人歓迎登山をしました。新人錬成登山には雲取山に登り、天気にも恵まれ富士山や南アルプスもきれいに見えました。第二次新人錬成の南八ヶ岳ではカモシカに会い、夏トレーニング登山では乾徳山の鎖場をこなし、翌日大菩薩に登りました。夏合宿は白馬岳と槍ヶ岳に登ってきました。冬には雪の我がワンゲルの山小屋「苗名小屋」でスキーを楽しむことでしょう。

現役ワンゲル部の公式ホームページ：<http://ynuww.com/>

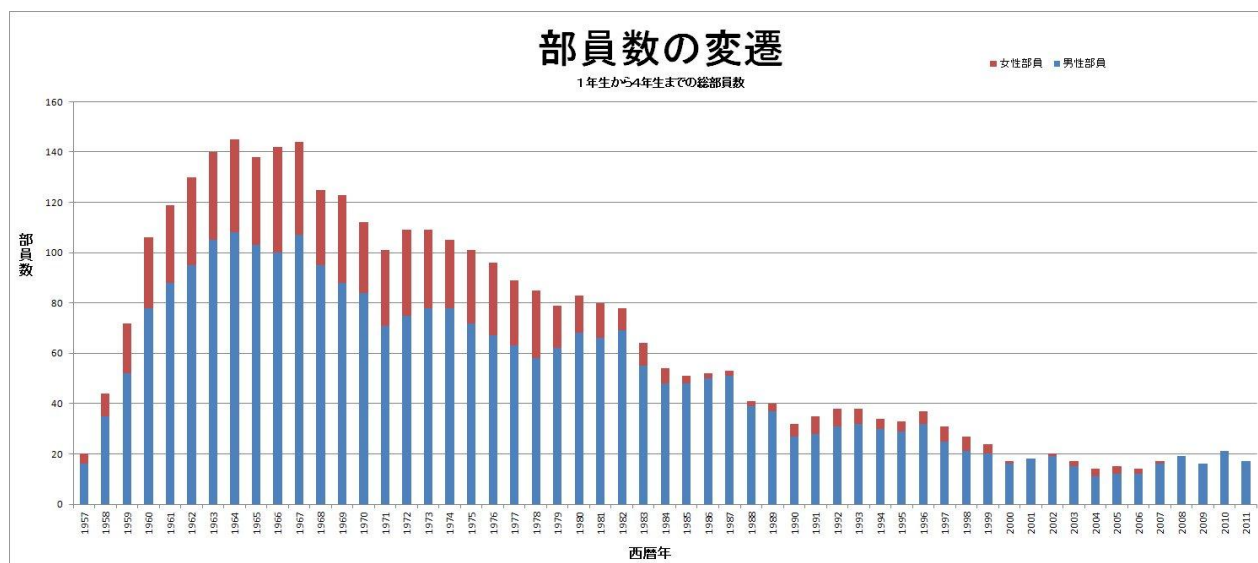
55周年とはOBと現役は親子以上の年齢差を意味しています。OBによる夏合宿壮行会実施や山道具などの物資支援、苗名小屋の共同利用と雪下ろし技術伝承など親子関係以上に連携を図って絆を保っています。



丹沢山に登ったOB山行、高低差1150m、行動時間8時間のロングコースを1期、2期の高齢者を含む一行が軽々とこなし、元気そのもの、継続は力なりと言いますが、ワンゲル活動を続けることこそが健康維持の源となるものです。学生時代からずっとワンゲルを続けてきて本当に良かったと元気なOBたちは考えています。

ワンゲル部OB会の公式ホームページ：<http://ywvob.com/xoops/>

今回のワングル展では、これまでの部活動の様子を、当時の写真・年表・グラフで掲示し、また登山テント・山道具・記念誌を含めた紙資料・芸術作品なども種々展示致します。まず、部員数の変遷を見てみましょう。



このグラフを見ると、1957年創立以来部は爆発的に発展し、1964年には総部員数が140名という巨大な部になりました。その数は徐々に減少して行き、1988年に40名に落ちて普通の部になりました。このグラフと日本の経済成長のグラフをあわせて考えると、その著しい類似点に気がつきます。1990年以降、日本社会の構造も代わり、大学生の状況もワングル繁栄時代とは全く様変わりしているのです。それでもワングルは存続し、山への情熱は燃え続けています。

部員達は単に山に出かけたわけではありません。出かける前にその地域を研究し、行動の理念を定め、行動計画書をつくり、登山後は報告書と総括書を作りました。これが膨大な資料となって部室に残されています。OB会ではこれらの資料や写真をデジタル化する事業を始めています。

部の機関誌「スカイライン」は始めの6巻まで年2回、以後年1回の発行で1980年まで続きました。以後は25、30、40周年記念号と出て終止符を打ちました。1990年頃からは学生たちは紙による記録を残さないようになりました。

SKYLINE

創刊号



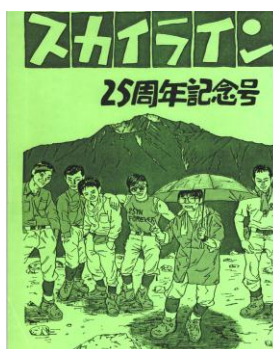
Vol.1 No.1 橋内田大平ワングル部

SKY-LINE

Vol.3 No.1



橋内田大平ワングル部



OB会では年3回、フルカラーのOB会報を発行しています。また、その公式ホームページは恐らく本学クラブ同窓会の中では断トツに充実したものと云えると思われれます。2007年にワングル創立50周年を迎え、記念式典を挙行了しました。その際に発行した50周年記念誌は東京と京都の国立国会図書館に収納されています。今回の展示会では皆様にこれらの一端をお見せしようと考えております。

皆様のお出でを心よりお待ちしております。